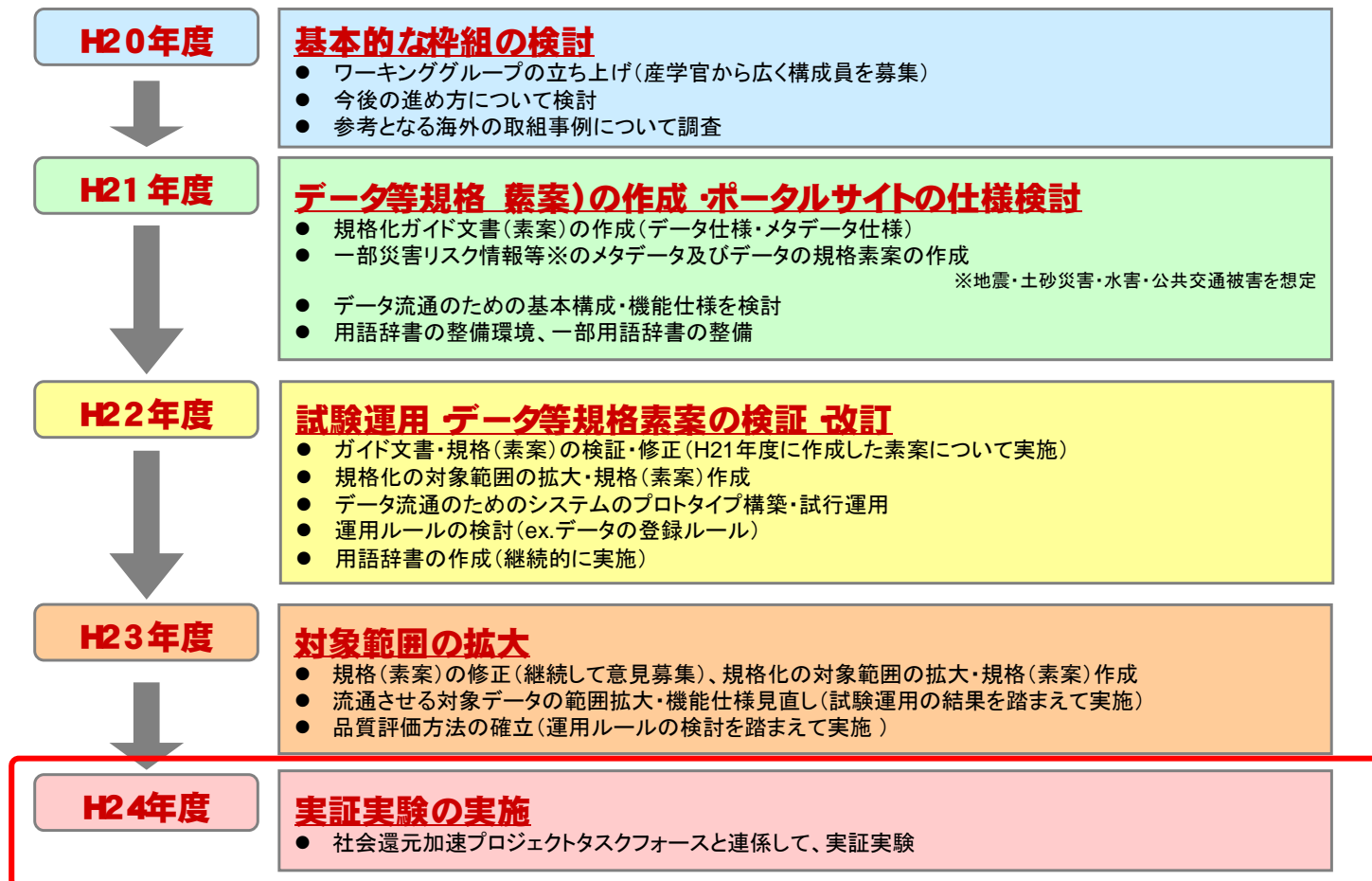


H24年度の活動計画(実証実験計画)(案)

1. 来年度の活動について(案)

- 平成24年度に、今後の実運用に向けて、これまでの活動成果等を検証するための実証実験を行う

災害リスク情報見える化のロードマップ



2. 実証実験で検証する事項(案)

防災WGの活動や東日本大震災等の教訓を元に“災害リスク情報等”の活用の観点から以下を検証

災害前(備え): ハザードマップ等の情報をより活用することでどんなことができるか…

- ハザードマップ情報等を二次利用可能な形態で提供することで高度化できる内容を確認
 - ✓ 標準化したデータ(防災WGのデータ製品仕様書に準じたデータ等)での提供による効果
 - ✓ WMS等の相互運用可能なプロトコルでの配信による効果
- 行政内部での利活用、民間等の事業者が活用、事業者等のサービスを通じて一般市民の活用 等々の利用場面を想定

災害後: 行政・民間・一般市民が有する情報・技術をより活用することでどんなことができるか…

- 民間等が保有する情報・技術をより活用し、行政の災害対応を支援
 - ✓ 民間等が収集・分析した情報を発災直後から行政が活用することによる効率化・高度化
(例えば、民間が収集した通行実績マップやソーシャルメディア情報等の行政による活用)
 - ✓ 民間技術を活用した情報集約(地図化)等によって行政の災害対応・判断に寄与
(例えば、避難所情報や被害情報を効果的に集約・共有)
- 行政等が保有する情報を活用できる形態で提供することで民間等の災害支援に活用
 - ✓ 行政や各種機関が保有・提供する情報・サービスの所在を明確化することによる効率化
(例えば、防災WGのデータ流通基盤にて情報・サービスの所在情報を提供)
 - ✓ 行政等が提供するデータの様式・形式を見直すことによる民間活用の高度化の可能性
(例えば、避難所情報等が位置情報等利活用に必要な情報が付与された様式で提供)

3. 実証実験の方法(想定)

実験参加者(想定)

- 実験シナリオに基づき以下の参加者を想定
 - ✓ 行政機関（主に自治体関係者を想定）
 - ✓ 民間企業・研究機関の関係者
 - ✓ ボランティア等

実験方法案

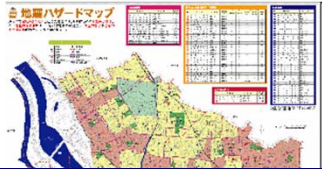
- 災害前の備え～災害後までのシナリオを元にそれぞれの立場による情報活用を実施
 - ✓ 行政機関 : 民間等からの情報・技術の活用
 - ✓ 民間企業等 : 行政等からの情報の活用
 - ✓ ボランティア等 : 行政、民間等からの情報・技術の活用
- シナリオは参加機関の提案等(どんなことができるか)を求めながら作成
- 自治体等の協力を得て具体的なフィールドで実施することを想定

■ 評価

- 意見交換会等を通じて、実現性(前提条件)、効果、課題(改善事項)を把握

4. 実証実験イメージ 1 (災害前(備え)の検証イメージ)

検証事項: 二次利用可能なデータが流通することで新たにできる備えは?
そのためにはどんな対応が必要?



(ニーズの高い情報)
ハザードマップや
航空写真等のアーカイブデータ 等



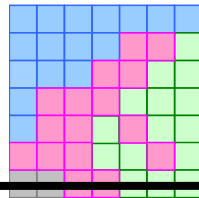
行政(自治体等)

内部での活用

<利活用例>

ハザードマップと住民基本台帳/建物データとの分析による詳細な被害想定(年齢構成別等)

利用できる形態



■二次利用可能な形態で提供

■所在情報の明示

【提供形態は...】

- ・データ製品仕様書に準拠したデータ提供
- ・WMS等による配信 等

【所在情報は...】

- ・データ流通基盤で所在情報(メタ情報)を提供

データ活用

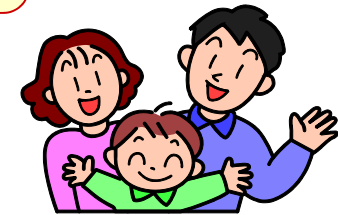


民間企業・研究機関等

サービス等への応用

<利活用イメージ>
BCP等企業内部での活用
市民等に対するサービス提供

<利活用イメージ>
災害時の帰宅ルート等の支援
サービスの利用



一般市民

4. 実証実験イメージ 1 (災害後の検証イメージ)

検証事項：民間等が保有する情報・技術を行政でどのように活用？

行政の情報を民間やボランティア等でどのように活用？

■情報集約等の支援

■各種情報・サービスの所在情報の明示

■民間等で収集・分析した情報を提供



行政(自治体等)



民間企業・研究機関等



例えば、
通行実績マップやソーシャルメディア情報等

■被災情報や避難所情報を
利用し易い形態で提供

民間側での活用

■サービス提供

<利活用例>

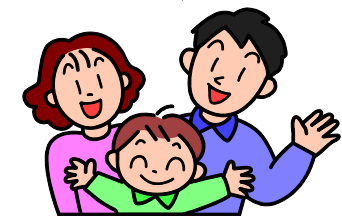
- ・ 民間等の情報の災害対応における活用 (通行実績マップ等の活用)
- ・ 行政側で手が回らない部分について民間の技術等を活用 (避難所情報の集約等)

<利活用例>

- ・ 被害分析や民間が収集した情報を早期に行政等に提供
- ・ 行政側のサポート (情報整理等)

<利活用例>

- ・ 避難所情報等が集約化されることで支援の高度化 (炊き出し等の効率化)



ボランティア・一般市民

東日本大震災で課題となった
ことを改善することで
新たにどんなことができるか

5. 実証実験の実施に向けて

(1) 検討すべき事項

- 実証実験の実施体制
- 検証事項・手法・期間
- 実験フィールドの選定
- 実証実験シナリオの具体化
- 実証実験参加機関等（民間企業・研究機関関係者、ボランティア等）との検証事項・手法等の調整
- 他システム等の実証実験との連携
- 評価手法・体制 etc.

(2) 想定スケジュール(案)

- | | |
|---------------------|------------------|
| □ 実証実験の実施に向けた各種調整等 | …【平成24年4月～】 |
| □ 実証実験1（災害前(備え)の検証） | } …【平成24年中～下旬頃】 |
| □ 実証実験2（発災以降の検証） | |
| □ 実証実験の評価・検証 | …【実証実験後～平成24年度末】 |
| □ 防災WGの取組への反映等の作業 | …【実証実験後～平成24年度末】 |